

聖歌623番・新聖歌465番 「いつかは知らねど」

- 1 いつかは知らねど 主イエスの再び
この世に来たもう 日ぞ待たるる
その時聖徒は 死より甦り
われらも栄えの 姿とならん
- 2 悩みは終わりにて 千歳(ちとせ)の世となり
遍(あまね)く世界は 君に仕えん
荒野に水湧き 砂漠に花咲き
御神の栄えを 仰ぎ得べし
- 3 されば萎(な)えし手を 強くし求めよ
弱りし膝(ひざ)をも 伸ばし歩め
約束のごとく 主は世に来たりて
迎えたもうべし その御民を
- 4 その日を望みて 互いに励まし
十字架を喜び 負いて進まん
嘆きも悩みも しばしの忍びぞ
楽しきたたえの 歌と変わらん
- 5 携(たずさ)え挙げられ 主イエスに抱(いだ)かる
その日の喜び いかばかりぞ
備えは終われり いざ来たり給え
花婿なる主よ 救い主よ

七里ヶ浜の哀歌 (Lamentations of Shichirigahama)

作詞者：三角錫子(みすみ すずこ,1872年-1921年)

作曲者：ジェレマイア・インガルス(Jeremiah Ingalls,1764年-1828年)

1. 眞白き富士の根 緑の江の島
仰ぎ見るも 今はなみだ
歸らぬ十二の 雄々しきみ霊に
捧げまつる 胸と心
2. ボートは沈みぬ 千尋(ちひろ)の海原(うなばら)
風も浪も 小(ち)さきうでに
力もつきはて よぶ名は父母
恨みは深し 七里ヶ濱邊
3. み雪は咽(むせ)びぬ 風さへさわぎて
月も星も 影をひそめ
み霊よいづこに 迷ひておわすか
歸れはやく 母の胸に
4. 御空にかゞやく 朝日のみ光り
闇(やみ)にしずむ 親の心
黄金(こがね)も寶も 何しに集めん
神よ早く 我もめせよ。
5. 雲間に昇りし 昨日の月影
今は見えぬ 人のすがた
悲しさ餘りて 寝られぬ枕に
響く浪の おとも高し
6. 歸らぬ浪路に 友よぶ千鳥に
我も戀ひし 失(う)せし人よ
つきせぬ恨の 泣く音(ね)は共々
今日もあすも かくて永久に